



2025年11月

みなさん、冬季から流行するインフルエンザについてご存知ですか？
インフルエンザの発生は、毎年11月下旬から12月上旬にかけて始まり、
翌年の1月～3月頃に感染がピークになると言われています。

感染力が強く、どの年代でも罹患する可能性があります。
インフルエンザの予防方法の一つとして、ワクチン接種があります。
ここではインフルエンザワクチンと母乳についてお話します。



インフルエンザの症状って？

1～3日の潜伏期間を経て、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの症状が突然現れ、咳・鼻などの上気道炎の症状が出現し、約1週間の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザです。
「風邪」に比べて全身症状が強いことが特徴です。

インフルエンザの感染経路って？

〈飛沫感染〉

感染している人の咳・くしゃみから出る飛沫を吸い込むことで感染します。

〈接触感染〉

感染している人の唾や鼻水が手に付着することで感染します。

妊娠中・授乳中にワクチンを打っても大丈夫？



インフルエンザのワクチンは不活化ワクチンといい、ウイルスの毒性をなくし、免疫を作るのに必要な成分だけで製剤しているため、ワクチン接種により感染を起こすことはなく、赤ちゃんに影響はないとされています。そのため、妊娠中～授乳中のお母さんへインフルエンザワクチン接種が勧められています。また、インフルエンザ時は母乳から赤ちゃんにインフルエンザが感染することはないため、マスク等の感染対策をしながら授乳を続けても問題ないです。

【参考文献】

- 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp>
- 首相官邸 <https://www.kantei.go.jp>